

耕畜連携推進事業費

所要額 45,000千円
(財源：全額重点交付金)

1 現状

<耕種農家>

- 肥料価格の高止まりによる収支の悪化 (約100%が輸入肥料)
(H30: 11,082円/10a → R5: 17,308円/10a⇒約1.6倍増)
- 米需要の低下に伴う米価下落による収入の減
(H30: 111,879円/10a → R5: 104,583円/10a⇒約7%減)

<畜産農家>

- 飼料価格の高止まりによる収支の悪化 (約88%が輸入飼料)
(H30: 28,448円/t → R5: 49,296円/t⇒約1.7倍増)



「**耕畜連携**」を更に加速し、府内産肥料・飼料を安定的に生産・供給可能な体制を確立し、耕種農家・畜産農家双方の所得向上、経営の安定を図る

2 耕畜連携における課題

<共通>

- 耕種農家は丹後地域に畜産農家は南丹地域に集中することから、輸送コストが高む

<耕種農家>

- 堆肥は輸入肥料と比較し、肥料成分のバランスが悪く、需要が少ない

<畜産農家>

- 飼料作物は一時期に一年分生産されるため、飼料作物を保管する設備が必須

3 事業概要

(1) 耕畜連携経営改善事業 (所要額：40,000千円)

対象者 (想定件数)	京都府内の畜産農家又は畜産農家等が組織する団体 120件
補助率	1/2以内
補助上限額	大規模農家：500千円、その他：250千円
補助対象	耕畜連携に資する機械・機器等 (例) 飼料保管テント倉庫、ペレット肥料乾燥装置、堆肥乾燥ハウス等
補助要件	収入10%以上増加等
所要額	40,000千円

(2) 耕畜連携広域流通システム構築事業 (所要額：5,000千円)

■ 飼料作物及び堆肥の輸送経費への支援 (5,000千円)

飼料作物及び堆肥の広域流通を推進するため、輸送経費の1/2を支援

※南丹→丹後(堆肥輸送)、丹後→南丹(飼料作物輸送)等

4 見込まれる効果

- 広域流通体制確立による飼料作物(耕種)と堆肥(畜産)の需給拡大による収益モデルが構築され、経営状況の改善につながる。